



えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り No.11
令和3年11月9日
文責：校長 福島

学校の外に出て見えるもの



修学旅行平和集会



自然教室集いの広場で

先週は月・火に修学旅行を、9月から延期した自然教室を金曜日に行いました。同じ週に修学旅行と自然教室を行うということは、特別な事情がない限りなかなかないことです。

小学生といえども、学校から一歩外に出れば社会と直接交わることになり、社会的な行動が求められます。6年生も5年生も、立派な態度でした。6年生は、バスガイドさんから「大変気持ちの良い子供たちです。」とほめられました。5年生は、自然の家の方から「もっともっと一緒に過ごしたいと思う素晴らしい態度です。」とほめられました。たくさんの小学生と接している方々がそう感じるというのは、素直にうれしいことです。手前味噌ですが、私も校長として子供たちの態度をととても誇らしく思いました。

春日小では、6年生をモデルの頂点としてよい循環ができています。正しいことが当たり前認められ、相手を大切にする基本的スキルがよく育っています。学校文化として確かに根付いています。

これに加えて先週の2つの行事で私が感じたのは、教師の指示の少なさです。

修学旅行2日目は、ハウステンボスに行きました。グループで行動します。「遊ぶ」「食べる」子供が最も意欲的になれるこの2つを目的に、「グループみんなが楽しく」というフィルターをかけ、あとは子供の判断にゆだねます。計画通りいかないことやハプニングもありましたが、自分たちで主体的に考えて行動できました。

5年生も、出発式から到着式まで、ほぼ教師の指示がなくても自分たちで考え、先を見通し、気持ちの良い集団行動をとることができました。「みんなそろそろ時間だよ、集合しよう。」「ありがとう。」こんな声掛けができます。

このような行動の背景には、学校で教えるべきことをきっちりと教えていることがあります。教える場面とゆだねる場面の使い分けが大切です。潤いのある環境で子供が主体性を発揮するためには、教えるべきことをしっかりと教えることと、良好な人間関係が必要です。

ご家庭ではいかがでしょうか。「潤いのある家庭」で、教えるべきことはきっちりと教え、お子様を信じてゆだね、笑顔で見守る場面をつくっていただきたい、そう願っています。